

国語 - 5 (第2学年) 大好きな場面を繰り返し読みながら物語を演じる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 お話の大好きな場面をペープサートで演じよう		
2 単元の目標 物語の大好きな場面を選びながら、登場人物の行動を中心に想像して読み、場面の様子をペープサート劇で演じて楽しむことができる。		
3 評価規準 【国語への関心・意欲・態度】 ・物語の読み聞かせを聞いて、好きな場面を見付けたり、お話の楽しさをペープサート劇で演じて楽しんだりしようとしている。 【読む能力】 ・ペープサート劇で物語の好きな場面を表すという目的をもって、登場人物の行動に気を付けて読み、場面の様子を想像している。 【言語についての知識・理解・技能】 ・同音の語でもアクセントによって意味が異なる場合があることに気付いて、セリフを声に出して読んでいる。		
4 教材 スイミー(レオ・レオ二作)ほか、海の生き物たちが登場する物語		
5 主な学習活動(単元の指導計画(全9時間))		
	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	<p>学習の見通しをもつ。</p> <p>1 レオ・レオ二の作品の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。</p> <p>2 教師のペープサート劇を見て、「お話のお気に入りの場面をペープサートで紹介しよう。」という学習課題を設定する。</p>	<p>わくわくする場面、心に残る人物の行動などについて述べ合う。</p> <p>読み聞かせで児童の感想が集まった場面を演じ、言語活動の見通しをもてるようにする。</p>
第二次	<p>「スイミー」を読み、好きな場面を演じる。</p> <p>1 「スイミー」のストーリー展開などを押さえながら通読する。</p> <p>2 好きな場面を探しながら通読を繰り返して、好きな場面を紹介し合う。</p> <p>3 好きな場面を選んだ理由について、登場人物の行動や会話に着目して考える。</p> <p>4 好きな場面を、登場人物の行動と会話を基にペープサートで演じる。</p>	<p>ペープサート劇の発表に必要な「登場人物や場面設定、事件や結末」などを押さえるようにする。</p> <p>展開全体の中で場面の様子がかめめるように、通読を繰り返す。</p> <p>人物の行動や会話、これまでの経験や読書体験との結び付きなどを踏まえて、好きな理由を見付けたり演じたりできるようにする。</p>
第三次	<p>自分の好きな物語を、お気に入りの場面を演じて紹介する。</p> <p>1 劇にする物語を選び、お気に入りの場面を読みながら、その様子に気を付けてペープサート劇の背景の絵を描く。</p> <p>2 ペープサートの動きとセリフの大体を考えて演じていく。</p> <p>3 選んだお話のあらすじを、登場人物、場面設定、事件、結末を押さえてまとめる。</p> <p>4 グループに分かれてペープサート発表会を行い、感想を発表し合う。</p>	<p>並行して読んできた物語から、自分の好きな作品を選び、登場人物の会話や行動からお気に入りの場面を決めるとともに、その理由を考えられるようにする。</p> <p>好きな場面を中心に、選んだ物語を繰り返し読みながら、ペープサートの動きや会話を考えていく。</p> <p>ペープサート劇を見て感じたことについて、人物の行動やセリフの面白さを中心に紹介し合う。</p>

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・国語の第1学年及び第2学年「C読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」を取り上げて指導している。

その際、「C読むこと」の言語活動例「イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。」を通して指導することにより、場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことを繰り返し位置付け、指導の効果を高めた事例である。

【言語活動の充実の工夫】

国語科における言語活動の充実を図るためには、本単元でどのような国語の能力を育成するのかを明確にした上で、そのためにふさわしい言語活動を、単元を貫いて位置付けることが大切である。本事例では、以下のような工夫が見られる。

付けたい力に応じた言語活動の選定

本事例では、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読む」能力の育成を目指している。そのためのより具体的な読む能力として、

- ・物語の中の好きな場面、心に残る場面を見つけて読むこと
 - ・登場人物の行動から場面の様子を想像して読むこと
 - ・登場人物の独白や会話から場面の様子を想像して読むこと
- などが考えられる。

一方、ペープサート劇を取り入れることにより、

- ・お気に入りの場面を背景に描く
- ・人物の行動に気を付けて読み、ペープサートの動きを考える
- ・登場の会話等に気を付けて、セリフを考える

といった活動を通して、児童自ら「場面の様子について、登場人物の行動を中心に」して叙述を繰り返し読む学習を位置付けることが可能となる。本事例においては、こうした指導意図をもって「物語を演じる」言語活動を取り入れることとしている。

「楽しんで読書しようとする態度を育てる」ための言語活動の工夫

本事例では、「大好きな場面」を見付けることを重視している。与えられた場面を受動的に理解するだけでなく、自分の「大好き・お気に入り」に着目することによって、学年目標である「楽しんで読書しようとする態度」を育み、一層主体的に場面の様子や登場人物の行動を読む能力の育成をめざすものである。こうした言語活動を通して、児童は「自分の大好きなところ」を見付けながら、読書を楽しむことができるようになった。

付けたい力を確実に指導するための指導過程の改善

従来は、場面ごとにしっかりと読み取り、その後に教材を劇にして演じるという指導過程をとる場合が見られた。しかし、次のような課題が見られた。

- ・低学年の児童にとっては、何のために場面の様子や登場人物の行動に着目して読むのかが実感しにくく、「想像を広げながら読む」ための手掛かりを得ることが難しい。
- ・物語は、場面が相互に関連しつつ一連のストーリーとして構成されているものであるが、与えられた場面ごとに読み取るため、「物語の中の」場面の様子は、むしろとらえにくくなる。

そこで、本事例においては、「劇を演じる」ことを単元全体を貫いて位置付けることで、次のように指導過程の改善を図っている。

単元の第一次、第二次、第三次を通し、一貫して「場面の様子を人物の行動に着目して読む」ことを位置付け、指導目標の確実な実現を図る。

第二次においても、通読を繰り返し位置付けながら、「自分の大好きな場面」を選ぶ意識をもたせることで、場面の様子をより強く意識して読むことができるようにしている。

第二次の段階から「物語を演じる」ことを位置付けることで、第三次の学習活動を円滑に行うことができる。そのため、活動を成立させるための支援ではなく、付けたい読む能力の育成に重点的に時間を使うことが可能となる。

